

特別講演 2

「血液検査データに基づく栄養療法」

新宿溝口クリニック 院長

溝口 徹 先生

日常診療で行う血液検査データは、一般的には基準値を参考に臓器の機能障害などを評価するために用いている。血液検査で測定される項目には、栄養素の代謝に関係する酵素などが多く含まれており、各検査項目の生化学的な機能や特性について理解すると、同じ検査結果であっても臓器障害だけでなく栄養代謝面での詳細な情報を読み取ることが可能になる。

1960年からカナダやアメリカで行われているオーソモレキュラー療法は、生体内物質の分子濃度を意図的に操作することで様々な病態の改善を意図して継続されている治療法である。生体内分子とは基本的には栄養素由来であり、血液検査データから得られる詳細な栄養代謝のトラブルの補正を薬に頼らず食事やサプリメントを用いて慢性疾患を改善させる治療法である。

本講演では、オーソモレキュラー療法について紹介し、一般的な血液検査データから栄養素の不足や代謝のトラブルについて評価し臨床へ応用する方法について紹介する。